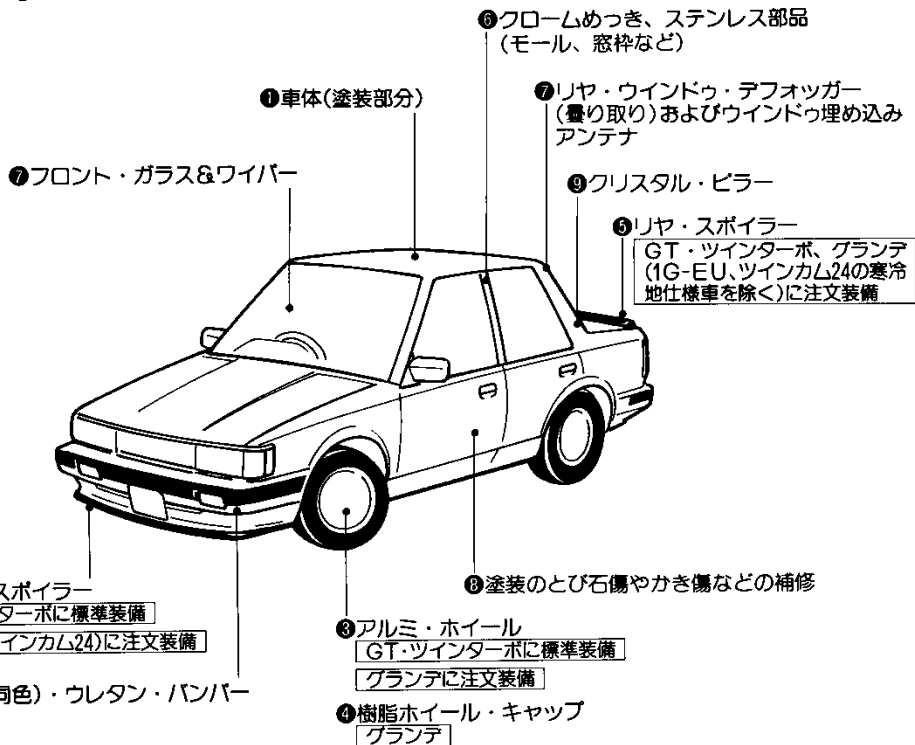


車の手入れ.....108
 経済運転のコツ.....111
 寒冷地での取り扱い.....112
 タイヤ・チェーン.....115

車の手入れ

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン



車を美しく保つには

車をいつまでも美しく保つためには、日頃の手入れが必要です。

1. 次のような場合は必ず洗車してください。

- 海岸地帯を走行したとき。
- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき。
- コールタール、ばい煙、油煙、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき。
- ほこり、泥などで著しくよごれたとき。

2. 次のような場所に長時間駐車しますと、塗装の劣化や、車体、部品の腐食などを早める原因となります。十分注意してください。

- 海岸
- ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉などの降下の多い場所。
- 化学物質を排出する工場周辺。
- 樹液、鳥のふん、虫の死がいなどの付着の多い場所。

① 車体(塗装部分)の手入れ

車体のほこりはやわらかい布か毛ばたきで取ってください。

▶ 洗車方法

1. 車体の下回り、足回りを洗います。
2. 次に、車体に十分水をかけながら、スポンジかセーム皮(鹿のなめし皮)でよごれを洗い落とします。
3. よごれのひどいときは、トヨタ純正カーシャンプーを使用します。



ちよと一書

1. コンパウンド(みがき粉)入りワックスや、液状ワックスは洗剤として使用しないでください。
2. エンジン・オイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。



注意!

1. エンジン・ルーム内の電気製品に水をかけないように注意してください。エンジン始動不良の原因となります。
2. 下回りを洗うときは、ゴム手袋などを着用してください。手にケガをすおそれがあります。
3. カーシャンプーを使用したあとは水で十分洗い流してください。
4. 自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。とくに、濃彩色車やメタリック車はスリ傷がめだちやすくなります。

4. 塗装面にはん点が残らないように十分水をふき取ります。

▶ワックスについて

ワックスの中にコンパウンド(みがき粉)がはいっていないものをご使用ください。

1. 1カ月に1度、または水のはじきが悪くなったときに行ってください。
2. 洗車後、車体の温度が体温以下のときに行ってください。しみの原因になります。
3. ワックスは次のトヨタ純正品をお使いください。

<固形タイプ>



- オートワックス・ゴールド
- オートワックス・シルバー
- オートワックス・メタリック

<液体タイプ>



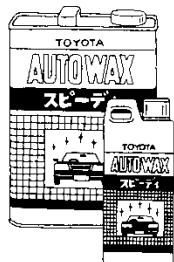
- オートワックス・ニュー・コート
- オートワックス・ホワイト・コート
- オートワックス・フレッシュ

<スプレー・タイプ>



- スプレー・ワックス
- スプレー・ワックス (メタリック)

4. 前記のワックスを使用しても、よごれがひどく落ちにくいときは、次のトヨタ純正品をお使いください。
オートワックス・ホワイト&クリーン



オートワックス・スピーディ



注意!

これらのワックスの中には微粒なコンパウンド(みがき粉)がはいっていますので、よごれ落ちはよくなりますが、塗装面を削り取るため塗装面の光沢が失われる原因になります。また使用した布に色が付着することがあり、とくに濃彩色車ではめだちやすくなります。できる限り3.のワックスを使用してください。

②カラード(車体同色)・ウレタン・バンパーの手入れ

1. 車体と同じく、洗車したあとトヨタ純正ワックスでワックスがけをします。
2. たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきますので、セーム皮、スポンジなどをご使用ください。

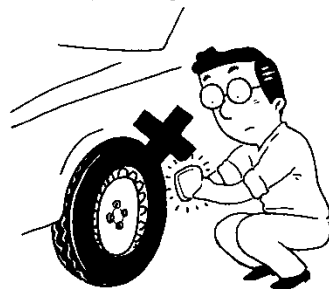


ちよっぴー

エンジン・オイル、グリースなどの油分が付着すると、変色、しみなどの原因となります。十分注意してください。

③アルミ・ホイールの手入れ

1. ホイールを洗うときは、中性洗剤を使用してください。
2. ワイヤー・ブラシなど硬い物を使用して洗うと、ホイール面に傷がつきます。セーム皮、スポンジなどをご使用ください。
3. 最後は十分水洗いをし、車体と同じワックスでワックスがけをしてください。




ちよっぴー

1. 泥の付着、海水、凍結防止剤などにより汚染されると、腐食するおそれがありますので、付着させたままにせず、なるべく早く洗い落としてください。
2. コンパウンド(みがき粉)入りワックスは、よごれがひどく落ちにくいときにだけ限定してご使用ください。
3. 自動洗車機を使用すると、ときによりブラシの傷がついたり塗装膜の摩耗を早めることがあります。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

④ 樹脂ホイール・キャップの手入れ

セーム皮、スポンジなどで十分水をかけながら洗ってください。たわしや自動洗車機の硬いブラシを使用すると塗装部に傷がつきます。




ピッチ・クリーナーなどが樹脂部分に付着すると、破損の原因となりますので、十分注意してください。

ちよつと一言

⑤ スポイラーの手入れ

- 1.セーム皮、スポンジなどで十分水をかけながら洗ってください。
- 2.たわしなどの硬い物を使用して洗うと傷がつきます。



自動洗車機を使用する場合は、必ず前側から洗車してください。洗車機によっては、リヤ・スポイラーがひっかかり洗車できないことがあります。十分注意してください。

ちよつと一言

⑥ クロームめっき、ステンレス部品(モール、窓枠など)の手入れ

- 1.車体と同じく、洗車したあとワックスかけをします。
- 2.しみなどは、トヨタ純正オートワックス・ホワイト&クリーンを使用して除去してください。


⑦ ウィンドウ・ガラスについて

ワイパーのふきが悪くなった場合は、次のトヨタ純正ガラス・クリーナーで清掃してください。



- ガラス・クリーナー・コンパウンド
- ガラス・クリーナー・リキッド
- ガラス・クリーナー・グランス

なお、ワイパー・ゴムが古くなっている場合も同様にふきが悪くなりますので最寄りのトヨタ販売店で交換してください。



リヤ・ウィンドウ・ガラス(室内側)の清掃は、断線を防止するため、湿った布で熱線にそって、軽くふいてください。ガラス・クリーナーなどを使用すると、リヤ・ウィンドウ・デフォッガー(曇り取り)が作動しなくなるおそれがあります。

ちよつと一言


⑧ 塗装のとび石傷やかき傷などの補修

これらの傷は腐食の原因となります。見つけたら早めにトヨタ純正タッチ・アップ・ペイントで補修してください。



⑨ クリスタル・ピラーの手入れ

- 1.セーム皮、スポンジなどで十分水をかけながら洗ってください。
- 2.洗車後は車体と同じワックスでワックスかけをしてください。

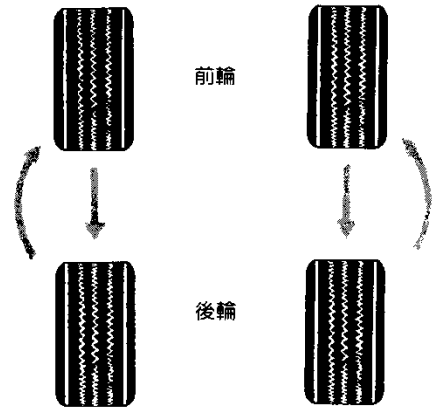



ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤またはコンパウンド入りワックスや液状ワックスは使用しないでください。

ちよつと一言

■ タイヤ位置交換

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を伸ばすために10,000kmごとに下図にしたがって位置交換を行うことをおすすめします。

タイヤに付着したよごれを落とす場合は、トヨタ純正タイヤ・クリーナーで清掃してください。

ちよつと一言

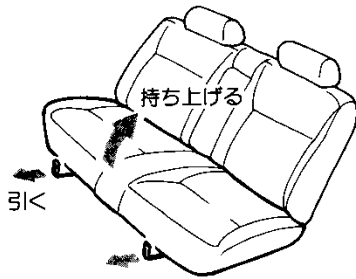
車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

■リヤ・シートの取りはずし方

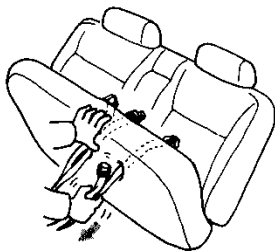
シート・カバーの交換などでリヤ・シートを取りはずすときは、次の要領で行ってください。

▶シート・クッションのはずし方


1. シート足元にあるレバー(2カ所)を引いたまま、シート前部を持ち上げます。



2. シート・クッションを手でささえながらシート・ベルトを下へ引き抜きます。



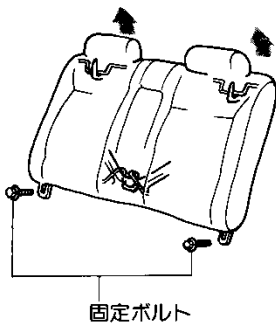
3. シート全体を手前に引きフックをはずします。



注意! レバーを引かずにシートを持ち上げると、シート固定具を損傷するおそれがあります。

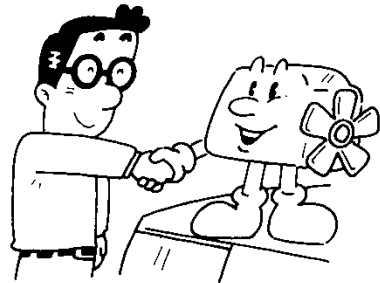
▶背もたれのはずし方

背もたれ裏側の固定ボルト(2本)をはずし、背もたれを持ち上げます。



経済運転のコツ

エンジンをいたわる気持ちで、長持ちの秘訣



1. (新車時はとくに) ひかえめな運転をしてください。
2. エンジンをオーバーラン(限界回転数超過)させないために、各チェンジ・レバーの位置での速度が下表の数値をこえないようにしてください。



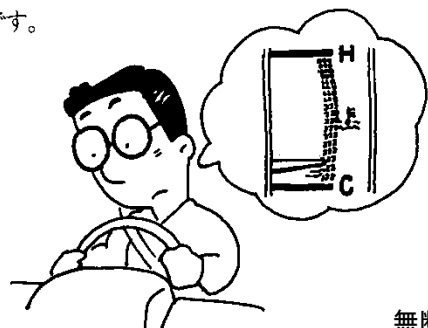
高速走行時、ギヤを一段下に落とすときはオーバーランに注意してください。

(単位: km/h)

排気量	エンジン型式	トランスミッション型式	1速	2速	3速	4速
2000	1G-EU	5速マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション	45	80	120	155
		2ウェイ・オーバードライブ付き4速フル・オートマチック・トランスミッション	55	100	145	
	1G-GEU	5速マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション	45	80	120	165
		ECT-S(2ウェイ・オーバードライブ付き電子制御式4速フル・オートマチック・トランスミッション)	60	105	150	
	1G-GTEU	5速マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション	50	90	130	170
		ECT-S(2ウェイ・オーバードライブ付き電子制御式4速フル・オートマチック・トランスミッション)	50	100	160	

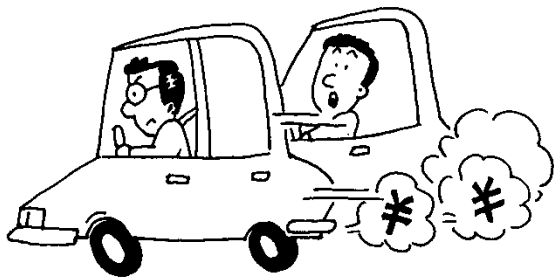
暖機運転は、長すぎると不経済

水温計の指針(または表示)が動き出すまでになればOKです。



車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

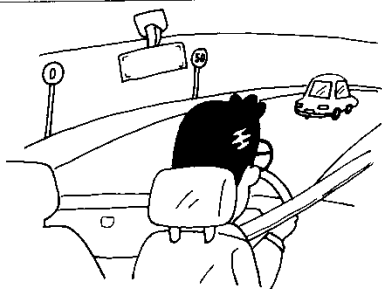
不必要な高速運転は燃料のムダ使い



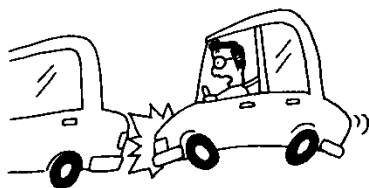
100km/h走行時の燃費は、40km/h走行時の約1.5~1.7倍よけいに多くかかります。
 高速道路は80km/h程度で走るのが経済走行といえます。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

車間距離はゆとりとって、安全プラス経済運転



急発進、急ブレーキは危険をともない不経済



クラッチの適正で確実な操作は、車を長持ちさせる秘訣

1. ギヤをいれるときは、クラッチ・ペダルを十分踏み込んでから行ってください。
 中途半端な踏み方ですと、クラッチはもちろんトランスミッションのギヤなどもいためることとなります。
2. 走行中は、クラッチ・ペダルに足をのせないようにしてください。
3. 発進時は、ロー(1速)・ギヤを使用してください。
 セカンド(2速)・ギヤ発進など半クラッチの多用はクラッチの摩耗を早めます。

寒冷地での取り扱い

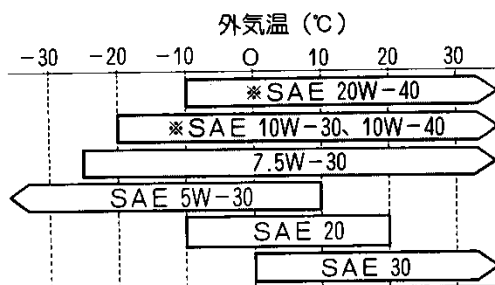
この項目での寒冷地とは、北海道全域および東北、北陸の積雪地帯および、その他の地域を含めた山岳地、スキー場などの局地的な厳寒地区、多雪地区を対象としておりますが、その他の地域においても、冬期の取り扱いの参考としてください。

安全なウインタードライブをするために

1. タイヤ・チェーンの準備
2. スノー・タイヤの装着
 スノー・タイヤに取り替えるときは、4輪とも交換します。
3. 冷却水の濃度を点検してください。(寒冷時は、キャスル・ロング・ライフ・クーラントの濃度を50%にします)
4. ウォッシャー液の濃度を50%以上にあげます。

使用地域・季節	希釈割合	凍結温度
通常	原液1に水2	-10℃
寒冷地の冬期	原液1に水1	-20℃
極寒冷地の冬期	原液のまま	-50℃以下

5. エンジン・オイルの粘度は、外気温によって下表を参考にして使いわけてください。



*ターボ車には10W-30、10W-40、20W-40のオイルの使用をおすすめします。



SAE20、30は使用できる温度範囲が狭いので注意してください。
 7.5W-30、10W-30、10W-40、20W-40のちよつと言 使用をおすすめします。

6. 寒冷地では冬がくる前に燃料タンクの水分を排出することをおすすめします。

また、水分除去剤にはトヨタ純正キヤッスル・エース・ウォーターカットを使用してください。

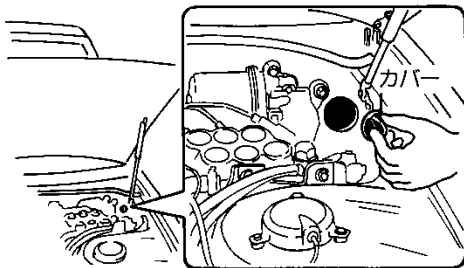
7. 凍結防止用ワイパー・ブレードの装着
必ずトヨタ純正品を使用してください。

8. ワイパーの切り替え

フル・コンシールド式ワイパーは、フロント・ガラスに多量の雪が積もった場合ワイパーが上がらなくなりワイパー・モーターを損傷するおそれがありますので、次の〈切り替え方法〉を参照してフル・コンシールド式からセミ・コンシールド式にしてご使用ください。

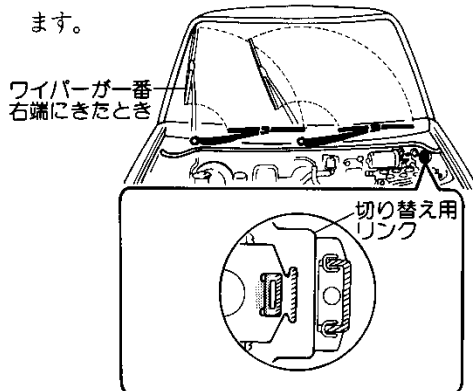
〈切り替え方法〉

1. エンジン・ルーム左側のワイパー・モーター横にあるカバーを取りはずします。



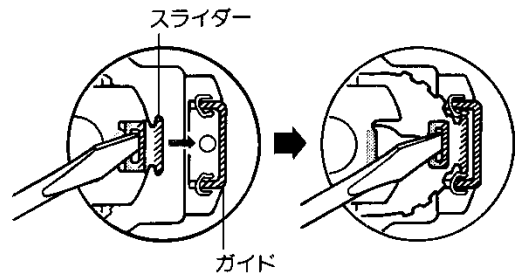
2. エンジン・スイッチをONにし、ワイパー・スイッチをLOの位置にします。

3. 運転席側のワイパーがウインドウ・ガラスの一番右端にきたとき、すばやくエンジン・スイッチをACCの位置にし、1.で取りはずしたカバーの穴からワイパー切り替え用リンク(下図)が見えることを確認します。



カバーの穴から切り替え用リンクが見えなければ2、3の操作を再度行ってください。

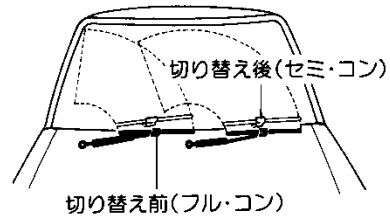
4. ⊖ドライバーを下図の位置に差し込み、スライダを右に動かしてガイドにはめ込みます。



ガイドにはめ込んだときカチッと音がしてロックされたことを確認してください。

5. エンジン・スイッチをONにし、ワイパーを4~5回作動させてください。

6. ワイパー・スイッチをOFFにし、ワイパー停止位置が上がっていることを確認します。



7. ワイパー・モーター横のカバーを取りつけます。



切り替え方法がわからないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

走行前の点検(運行前点検)

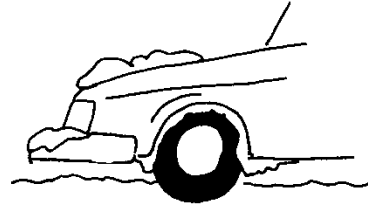
寒冷時には、次の項目を運行前点検のときに実施してください。

1. 車の下をのぞいて、足回りに付着した氷塊を部品に傷をつけないように注意して取り除いてください。
2. エンジン始動時にアクセル・ペダルの作動が円滑かどうか確認してください。
3. フロント・ウインドウの氷雪を除去する際には、ワイパー・ゴムがガラスに凍結していないか確認してください。

雪道走行時、

フェンダー裏側に付着した雪が氷結し次第にたい積して、ハンドルのきれが悪くなる場合があります。

ときどき異常のないことを確認してください。



エンジンの冷えすぎを防ぐには



1. 気温に応じてラジエーター前面にカバーをつけるとエンジンを適温に保つのに効果があります。
2. 駐車するときは、ボンネット側を風下にしてください。

アクセル・ペダル凍結防止のため、靴に付着した雪を乗車時よく落としてください。



ドアの凍結時の処置

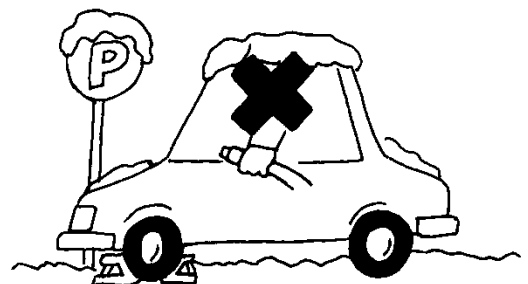
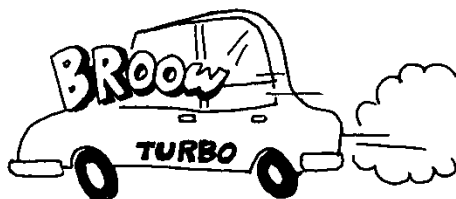
ドアが凍結した場合は無理に開けようとするとドア周りのゴムがはがれたり、き裂するおそれがありますので、湯をかけて氷を溶かしてください。なお、後で水分を十分ふき取ってください。また、トヨタ純正アイスガード(凍結防止剤)を使用すればゴムの凍結を防ぎ、ドアを楽に開けることができます。

ターボ車はエンジン始動直後に、エンジンの急激な空ふかし、または急加速をしないでください。

凍結するおそれのある場合の駐車は…

寒冷時はパーキング(駐車)・ブレーキをかけておくとブレーキ装置が凍結するおそれがありますので、パーキング(駐車)・ブレーキはかけないでください。

1. チェンジ・レバーの位置をマニュアル(ギヤ式)・トランスミッション車はロー(1速)またはリバース(後退)、オートマチック・トランスミッション車はP(駐車)にします。
2. 車が絶対に動くことのないように輪止め(搭載工具に含まれています)をしてください。



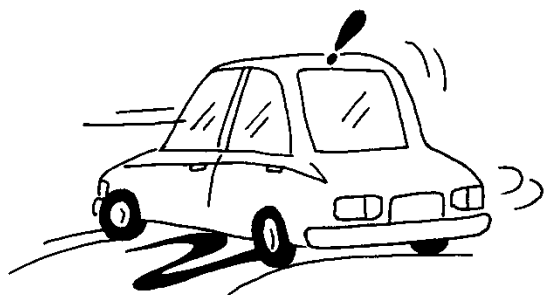
寒冷地では雪道走行時あるいは駐車時にブレーキ装置に着氷し、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

走行中は前後の車や道路状況に注意し、ときどき軽くブレーキ・ペダルを踏んでブレーキの効き具合を確認してください。

また、駐車後走行を開始する場合も、できるだけ早くブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪い場合は低速で走行しながら、効きが回復するまで数回ブレーキ・ペダルを軽く踏んでください。

ぬれた路面、氷雪路面、凍結路面ではスリップに注意



ひかえめな速度で走り、氷雪路面、凍結路面では、スノー・タイヤ、タイヤ・チェーンを装着してください。地域によっては、条例などで使用が義務づけられていますので、冬がくる前に準備しておいてください。

タイヤ・チェーン



ちょっと一言

1. タイヤ・チェーンは後2輪に取り付けます。
2. 作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。
3. タイヤ・チェーンはタイヤ・サイズにあったトヨタ純正品（下表指定サイズのもの）を使用してください。

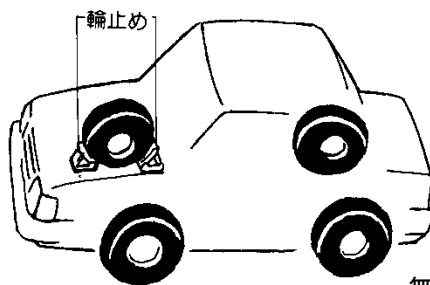
タイヤ・サイズ	指定サイズ(JIS表示)
185/70S R14 (185/70R14 87S)	45191
185/70H R14 (185/70R14 87H)	
195/70S R14 (195/70R14 90S)	45192
195/70H R14 (195/70R14 90H)	
205/60R15 89H	

■取り付け方

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業できる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板を使用します。
3. パーキング(駐車)・ブレーキをかけます。

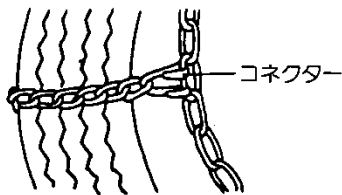


4. 工具、ジャッキを取り出します。
5. 左側チェーン取り付け時には右側前輪、右側チェーン取り付け時には左側前輪の前後に、輪止め(搭載工具に含まれています)をします。

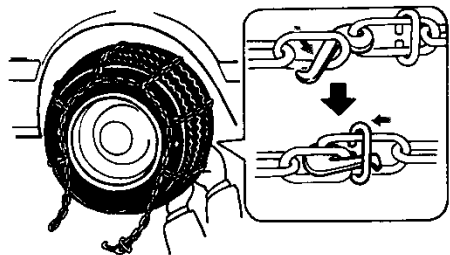
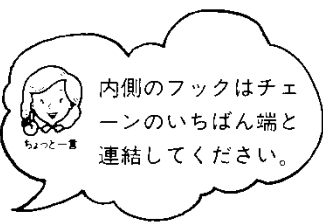


車の手入れ、経済運転のコツ、寒冷地での取り扱い、タイヤ・チェーン

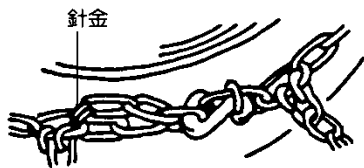
6. 後輪をジャッキ・アップします。☞95ページの「ジャッキ」を参照してください。
7. コネクターの折り曲げが外になるようにチェーンをかぶせます。



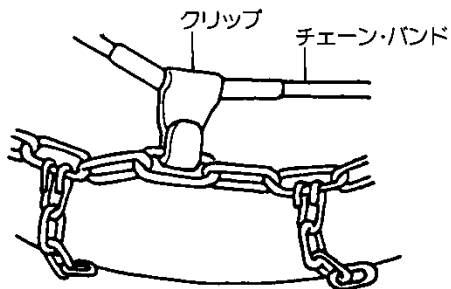
8. チェーンの両端をいっぱい引っ張って内側のフックを、次に外側を連結します。



9. 余ったチェーンは車体に当たるのを防止するため図のように針金で結びます。



10. チェーン・バンドはクリップの爪を外向きにし、チェーンにかけます。



11. ジャッキをおろし、輪止めをはずします。

12. 2～3分走行後、チェーンのゆるみ、はずれなどがないことを確認してください。



ちょっと一言

1. 走行中タイヤ・チェーンが切れたり、一部はずれたりした場合は、車体側に当たり悪影響をおよぼしますので、ただちに処置してください。
2. ホイール・キャップ付き車の場合、ホイール・キャップに傷がつくおそれがありますので、タイヤ・チェーンを装着する場合にはホイール・キャップをはずしてください。
3. アルミ・ホイール装着車はホイールに傷をつけるおそれがあります。

■取りはずし方

1. チェーン・バンドをはずし、針金を取り、フックは内側から先にはずします。
2. 車を少し動かし、チェーンを取り出します。



注意!

1. タイヤ・チェーン購入時に一度装着して、長すぎる場合は、タイヤ・サイズにあうよう切ってください。
2. タイヤ・チェーンを装着した場合、雪道、凍結路は30km/h以下で走行してください。
3. 雪道、凍結路以外でのタイヤ・チェーンの装着はチェーンの寿命を短くしますので、できるだけさけてください。
4. 前輪にはタイヤ・チェーンを装着することはできません。